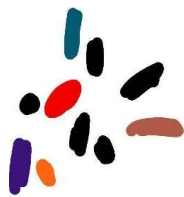


## 4 北海道遺産

次の世代に遺したい 北海道の「宝物」

### 北海道遺産



北海道遺産  
Hokkaido Heritage

まちの元気や魅力の種を探し、育んでいくことを通じて、新しい魅力を持った「大きな北海道」をつくって行きたい…。豊かな自然はもちろん、北海道に生きてきた人々の歴史や文化、産業など有形・無形の財産の中から、道民の参加により選ばれました。

道内で74、十勝管内では6つの大切な宝物が北海道遺産に認定されています。

#### ●旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群（上士幌町）

昭和初期に十勝内陸の産業開発を目指して建設された第1級の鉄道遺産。

市民と産学官が一体となって、34橋梁を保存しました。中でもタウシュベツのアーチ橋は、糠平湖の水位により姿を変える「幻の橋」として人気です。



#### ●北海道の馬文化（ばん馬、日高のサラブレッドなど）（北海道各地）

古くから本道の開拓にあたって人々と苦勞をともにしてきた北海道の馬たち。

帯広では世界で唯一の「ばんえい競馬」が開催されており、2006年公開の映画「雪に願うこと」の舞台にもなりました。



#### ●螺湾（らわん）ブキ（足寄町）

足寄町の螺湾川に沿って自生する高さ2m～3mにもなる巨大なフキ。なぜ大きくなるのかはいまだに謎。ミネラルが豊富で繊維質に富み、足寄町のオリジナルブランドとして有名です。



#### ●モール温泉（音更町ほか）

呼び名のモールは「Moor」のドイツ語読みにならむもの。泥炭を意味し、独特の黒っぽい湯が特徴。主成分は植物性腐食質、鉍物成分より植物成分が多く、



#### ●十勝三股の樹海（上士幌町）

大雪山国立公園の東部に位置する十勝三股は、約100万年前の大規模噴火によって生成したカルデラです。エソマツをはじめとする広大な森林が広がるとともに、永久凍土などの寒冷地帯、温泉などの地熱地帯が共存することで、多様な生物が生息しているということが特色となっています。

#### ●北海道の集治監（帯広市ほか）

北海道の初期インフラ整備と地方文化形成を担った集治監（国立刑務所）。十勝分監（後の十勝監獄）の受刑者は農地開発など十勝の開拓に従事しました。十勝監獄石油庫は帯広市で現存する最古の建造物であり、帯広市指定文化財に登録されています。

北海道遺産ホームページ(北海道遺産構想推進協議会) <http://www.hokkaidoisan.org/>

# 5 交通

## 道路

広大な面積を有する管内では自動車交通への依存度が高く、道路網は圏域内外の物的・人的交流に重要な役割を果たしています。

他圏域とを結ぶ主要幹線国道は、国道38号など7路線があります。

高速自動車国道の北海道横断自動車道（道東道）は、平成23年10月に占冠～夕張間が開通し、十勝圏が道央圏と直接結ばれ、両圏域間を往来する利用交通が増加し、交流人口が拡大しました。さらに本別JCTを分岐点として釧路方面及び北見方面への整備が進められており、平成27年3月の浦幌～白糠間の開通により、十勝圏と釧路圏が高速道で結ばれ、平成28年3月には阿寒まで延伸しました。現在は占冠～十勝清水間の4車線化が順次進められているところです。

一般国道自動車専用道路の帯広・広尾自動車道路は、平成27年3月に更別～忠類大樹間が開通し、帯広から十勝南部への所要時間の短縮による物流や救急搬送などの利便性向上が期待されています。

管内の高規格幹線道路の整備については、当面着工しない区間となっていた北海道横断自動車道の足寄～陸別間が令和3年度に事業を再開され、帯広・広尾自動車道の豊似～広尾間についても令和4年度に事業化されています。

## 道の駅

「道の駅」は、道路利用者のための休憩機能、地域の情報発信機能、また、道の駅をきっかけに地域の連携を図り、共に地域づくりを行う地域連携機能を併せ持つ施設として整備されています。

管内では、15箇所の「道の駅」が整備されており、令和4年度には「おとふけ」が移転しています。

## 新たなモビリティサービスの導入

近年、公共交通を取り巻く環境は、少子高齢化に伴う利用者の減少、自動車運転免許証の返納に伴う高齢者の移動手段の確保、バス・タクシー運転手等の担い手不足などの課題を有しています。

管内では、これらの課題に対応し公共交通の維持・確保を図るため、デジタル技術等の活用により移動の利便性向上を創出する新たなモビリティサービスの導入が進められています。

### 〇観光MaaS「トカチケ」の実証

管内の公共交通と観光施設やアクティビティサービスを一括化した交通旅行商品の検討・造成・販売により、観光客の周遊を後押し、域内外の観光客等の利用促進及び地域活性化を図る観光MaaSの取組が行われています。

十勝地域の移動にお得なきっぷが Webアプリで購入できます

「トカチケ」ならお得なきっぷが手軽で使いやすく！スマートフォンと「トカチケ」を使い、スマートな十勝の旅をお楽しみください。



**Toka ticket**

### 〇デマンド交通の導入

郊外部における市街地への移動ニーズに対応する予約型のデマンド交通の導入に取り組んでいます。

帯広市南西部郊外に位置する大空地区では、大型商業施設等への移動ニーズに対応するため、「おおよライナー」が運行され、芽室町では、町内の各集落から中心市街地への移動ニーズに対応する「コミタク」が運行されるなど管内複数箇所で導入が進んでいます。

### 〇自動運転バスの導入

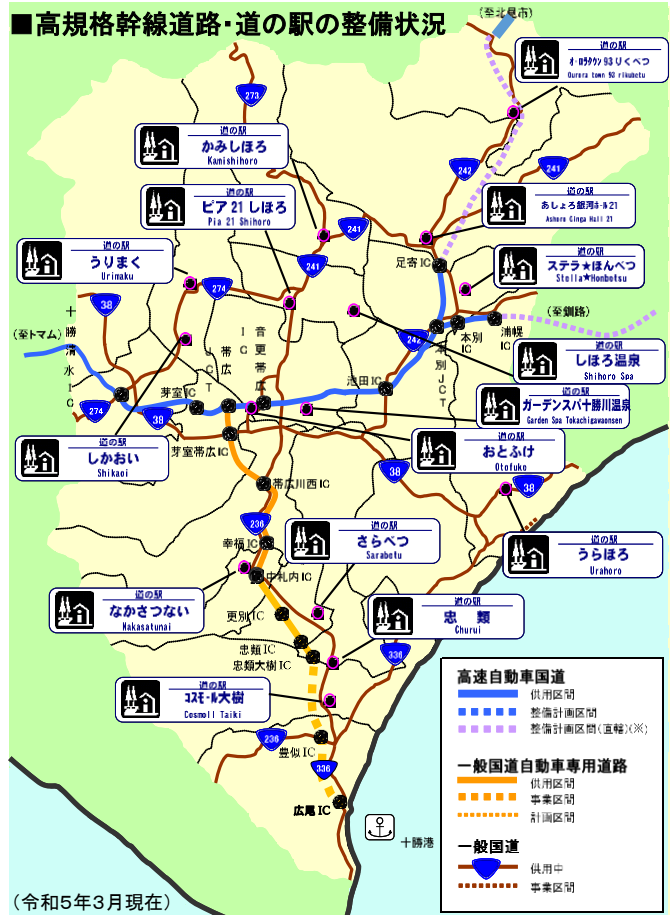
持続可能な地域公共交通網を構築するため、帯広市や上士幌町では自動運転バス車両の実証実験、定期運行が行われています。



おおよライナー(帯広市)



自動運転バス(上士幌町)



整備計画区間(直轄): 新直轄方式(平成15年導入)

- ・新会社による整備・管理が難しいと見込まれる高速自動車国道の路線・区間の整備を国が直轄で行う区間。
- ・事業費は、国、地方公共団体が負担し、通行料は無料。



道の駅おとふけ(音更町)



道の駅うらほろ(浦幌町)

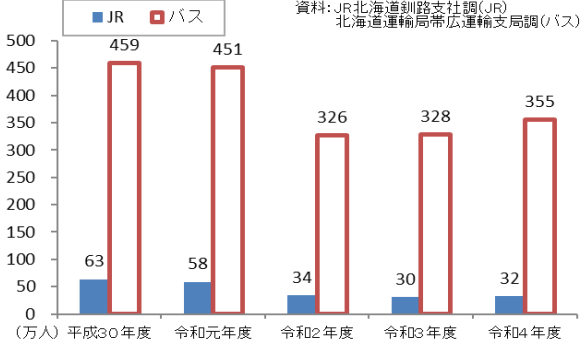


# 6 運輸

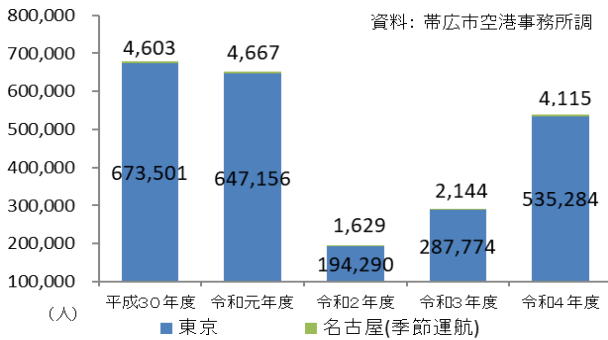


とちち帯広空港(帯広市)

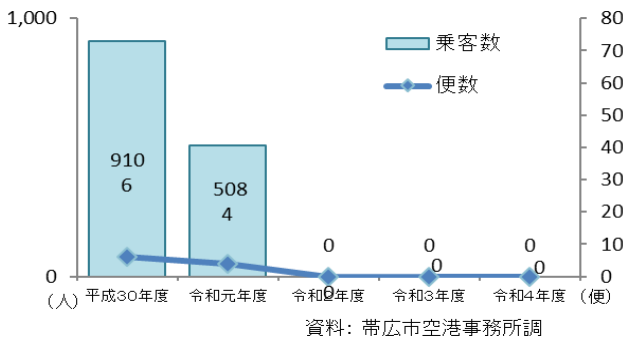
## ■鉄道・バス乗客数の推移



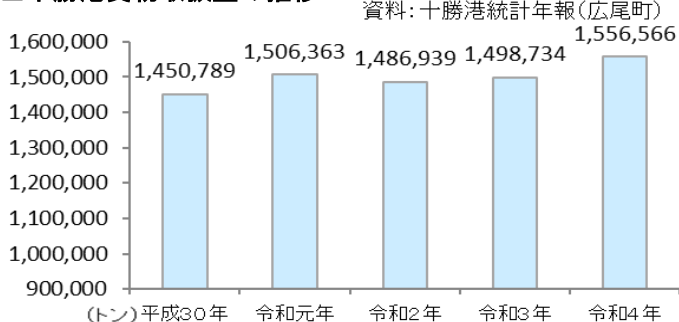
## ■とちち帯広空港利用者数の推移



## ■とちち帯広空港における国際チャーター便の推移



## ■十勝港貨物取扱量の推移



## ■鉄道・バス

管内の鉄道はJRが十勝圏と道央圏・釧路圏を結び、帯広～札幌間を最速2時間25分、帯広～釧路間を最速1時間31分で運行しています。

都市間バスは、道東道の開通により札幌まで最速3時間25分で運行しています。

地域内の路線バスについては、地域住民にとって必要不可欠な生活交通を確保するため、運行費の一部に対し、国や市町村と協調し補助を行っています。

また、公共交通空白地帯で利用者の利便性が低下している地域では、コミュニティバスや乗合タクシーなどを導入している市町村もあります。

## ■空港

管内唯一の空港である「とちち帯広空港」は、昭和56年に道内4番目のジェット化空港として開港しました。

2,500mの滑走路を有し、国内では東京線が運航され、ビジネス客のほか、観光客及び修学旅行生の誘致などを通じて地域の発展に貢献しています。

平成23年3月からは、東京線に新たにエア・ドゥが就航したことで日本航空とのダブルトラッキング化が実現したほか、平成26年8月からは、名古屋線が季節運行で再開する等、更なる利便性の向上が期待されています。

一方、国際チャーター便については、近年堅調に推移し、道東地域の観光振興に大きな効果が期待されていましたが、令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、運行がない状況が続いています。

## ■港湾

昭和45年に重要港湾の指定を受けた十勝港は、本道と本州を最短距離で結ぶ地理的条件に恵まれています。

平成11年7月に税関の出張所が設置され、関税法による貿易開港が実現し、平成12年6月には、釧路港への無線申請で入港が可能な無線検疫港に指定されました。平成22年4月には、4～8万トン級の大型貨物船が着岸できる水深13m岸壁の本格供用が開始され、同年10月には道内最大級の配合飼料コンビナートが竣工し、翌年4月から本格稼働しています。

貨物取扱量は、平成28年以降堅調に推移してきましたが、令和4年の取扱貨物量は前年から約6万トン増加しています。



重要港湾「十勝港」(広尾町)

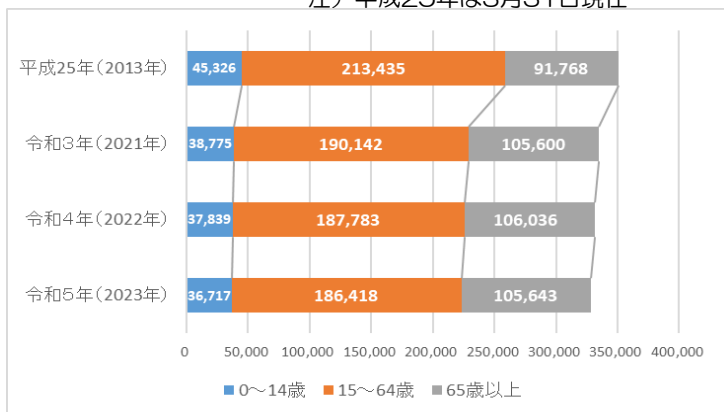
# 7 保健医療福祉

## 概況

人口の減少や少子高齢化の進行のほか、生活習慣病の増加など疾病構造の変化、世帯の小規模化や独居高齢者の増加など世帯構造の変化、さらには、住民の価値観やライフスタイルの変化に伴うニーズの多様化など、保健医療福祉を取り巻く環境は著しく変化しています。

このような中で、安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現に向けて、地域の実情に応じた保健医療福祉施策を総合的に推進することとしており、「がん対策を推進するなど生活習慣病を予防するための体制づくり」や「高齢者や障がいのある方々が暮らしやすい地域づくり」、「だれもが安心して子どもを生み育てることができる環境づくり」などの取り組みを進めています。

## ■年齢別人口及び人口比率の推移（各年1月1日現在） 注）平成25年は3月31日現在



出典資料：年齢5歳階級別人口・住民基本台帳年報

## ■社会福祉施設等の状況（単位；箇所）

施設名	十勝	全道
養護老人ホーム	7	57
介護老人福祉施設	53	507
軽費老人ホーム	4	125
老人サービスセンター	119	1,774
生活支援ハウス	7	55
認知症高齢者グループホーム	80	1,003
障害児入所施設	2	24
子ども発達支援センター	15	90
共同生活援助	56	866
障害者支援施設	17	200
生活介護事業所	47	650
自立訓練（生活訓練）事業所	4	66
就労移行支援事業所	7	145
就労継続支援A型事業所	16	272
就労継続支援B型事業所	76	1,289
児童発達支援事業所	48	1,038
放課後等デイサービス事業所	60	1,263
介護老人保健施設	16	189
児童養護施設	1	23
保育所（保育所型認定こども園を含む）	54	788
放課後児童クラブ	84	1,027
児童館	22	365
子育て支援センター	30	416
介護医療院	1	42

資料：総合振興局保健環境部保健行政室及び社会福祉課

（令和6年2月1日現在）  
（保育所、児童館、子育て支援センターは、令和5年4月1日現在）  
（放課後児童クラブは、令和5年5月1日現在）



保育の様子

# 7 保健医療福祉

## ■保健医療

十勝では、帯広市及び周辺3町（音更町・芽室町・幕別町）の人口が管内人口の約7割を占め、医療機関についても管内の約7割、医療従事者については管内の8割以上がこの地域に集中しています。

このため、地方・地域センター病院(※)が中核医療機関となり、へき地等の医療機関へ医師派遣を行うなど地域医療の確保に努めています。

北海道健康増進計画の目標である「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」の実現に向け、十勝としての現状や課題を踏まえ「十勝圏域健康づくり事業行動計画」を策定し、地域の関係者と役割分担をしながら健康づくりを推進していきます。また、各市町村において計画的な生活習慣病予防対策などの取り組みを進めています。



オストメイト対応トイレの設置(浦幌町)

## ■医療施設の状況

(単位：箇所)

施設名	十勝管内	全道
病院	32	539
診療所	201	3,400
歯科診療所	167	2,818
薬局	144	2,325

出展資料：令和3年北海道保健統計年報

病院・診療所・歯科診療所 令和3年10月1日 現在

薬局 令和4年3月31日 現在

### ※地方・地域センター病院とは

地方センター病院は、第3次保健医療福祉圏（全道6圏域）の高度・専門医療機関として、地域センター病院は、第2次保健医療福祉圏（全道21圏域）の中核医療機関として、それぞれ道が指定します。十勝管内では地方センター病院として帯広厚生病院、地域センター病院として帯広厚生病院と帯広協会病院を指定しています。

## ■福祉

高齢者の福祉については、第8期北海道高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画に基づき、地域包括ケアシステムの推進などに取り組みました。

また、令和6年から令和8年を対象期間とする第9期北海道高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画を作成しました。

障がい者の福祉については、「北海道障がい者条例」、「第6期北海道障がい福祉計画」等に基づき、「希望するすべての障がい者が安心して地域で暮らせる社会づくり」を目指し、各種施策を実施しています。

また、「北海道障がい者条例」に基づき設置した「障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」では、障がい者の虐待や差別、様々な暮らしづらさの問題について、関係者との話し合いにより解決を図るほか、障がい者福祉に関する地域の課題等についての話し合いも行っています。

少子化対策については、「第4期北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」に基づき、社会全体で子育て世代を支える「子どもや子育てをみんなで応援する」ステージのほか、妊娠、出産、子育て子育て・自立のライフステージを設定し、少子化に関連する施策や事業を推進していきます。